

【2022年卒 就職活動TOPIC】 理系の学科系統による活動の違いは？ 就職内定率だけでなく、就職活動の進め方や進路確定の時期が異なる

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）のよりよい就職・採用のあり方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。文系学生に比べ就職内定率の高い理系学生について、学科系統ごとに就職活動の動向を分析しご報告します。

面接形式（対面・Web）や進路確定時期に傾向差が見られる



所長 増本 全

今回は2022年卒の理系学生の6月12日時点での動向を「生物・農学・水産系」「機械・電気・電子系」「情報工学系」「建築・土木系」の学科系統別に分類し、調査結果を分析しました。分析結果からは、就職活動の進め方や進路確定の時期などの行動について学科系統別に異なることがわかりました。

「生物・農学・水産系」

2～4月にかけて就職内定率が大学生全体を下回っていたが、4～5月にかけて大きく上昇。進路確定時期は5月（40.7%）が高く、文系も含めた大学生全体の動きと近い。「インターンシップに参加した」、「Web上での面接を受けた」など各活動の実施率も大学生全体の数値と近いものの、インターンシップの参加社数の平均については大学生全体が7.9社、生物・農学・水産系が4.7社となっている。

「機械・電気・電子系」

4～5月にかけて就職内定率が大きく上昇している。進路確定時期は4月（35.3%）に次いで6月（26.1%）が高い結果となった。各活動実施率を見ると「対面での面接を受けた」割合が84.9%と大学生全体の74.0%と比べて10ポイント程度高い。

「情報工学系」

就職内定率は2月1日時点で既に20.0%と他学科系統に比べて10ポイント程度高い。一方で進路確定時期の推移を見ると、3月以降も一定の高さを保っているところから、内定取得後も活動を継続し、徐々に進路を確定させていく様子が見える。内定取得先業種は「情報・サービス業」が大学生全体と比べても高く、81.4%である。

「建築・土木系」

内定取得先企業の業種を見ると「建設業」が80.6%と他学科系統と比べても高くなっている。進路確定時期はピークが4月（28.0%）であり、5月にピークを迎える大学生全体と比べても若干早い。各活動実施率を見ると他学科系統と比べ「対面での面接を受けた」（88.2%）の割合が高い。しかし活動量を見ると、「インターンシップ参加」や「エントリーシートなどの書類提出」、「Web上での面接を受けた」などの平均社数が大学生全体と比べて少なく、接点を持っている企業の数が少ないことがうかがえる。

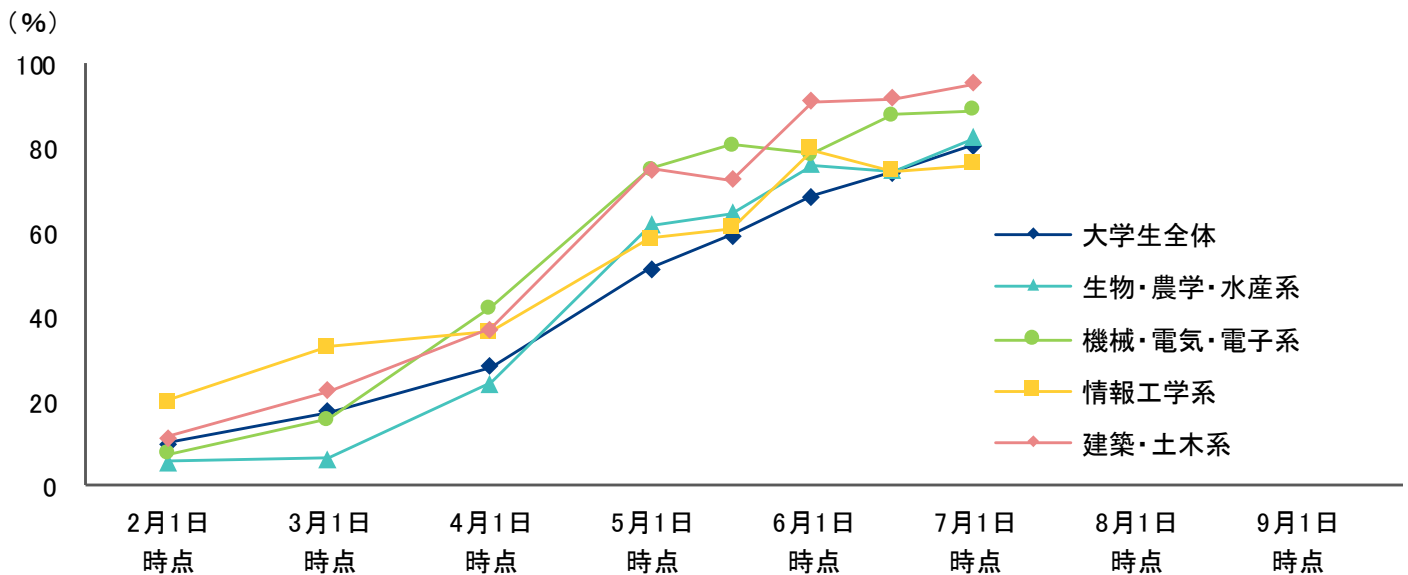
I.学科系統別に見る就職内定率（大学生）

学科系統によって内定率の推移に差が見られる

- ・ 5月1日時点の内定率が各学科系統で大きく伸び、4月1日時点まで大学生全体を下回っていた生物・農学・水産系も含めて各学科系統で大学生全体の内定率を上回った。
- ・ 情報工学系は、2月1日時点の内定率が20.0%と、他学科系統に比べて10ポイント程度高い。
- ・ 生物・農学・水産系と機械・電気・電子系は5月1日、次いで4月1日で、前月に比べ内定率が大きく上昇。この時期に多くの学生の内定取得が進んだことがうかがえる。

2022年卒 就職内定率（大学生）

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



	2月1日 時点	3月1日 時点	4月1日 時点	5月1日 時点	5月15日 時点	6月1日 時点	6月12日 時点	7月1日 時点
■大学生全体	9.9%	17.6%	28.1%	51.3%	59.2%	68.5%	74.1%	80.5%
■生物・農学・水産系	5.7%	6.3%	24.1%	61.8%	64.4%	75.9%	74.4%	82.3%
■機械・電気・電子系	7.6%	15.8%	42.2%	75.1%	80.6%	78.5%	87.7%	88.9%
■情報工学系	20.0%	32.7%	36.2%	58.5%	61.0%	79.5%	74.7%	75.9%
■建築・土木系	11.3%	22.4%	37.0%	75.1%	72.4%	91.1%	91.6%	95.3%

※背景を灰色で表記している数値は集計対象数が50に満たないため、参考値です

※「就職内定率」の用語の定義は、14ページをご参照ください

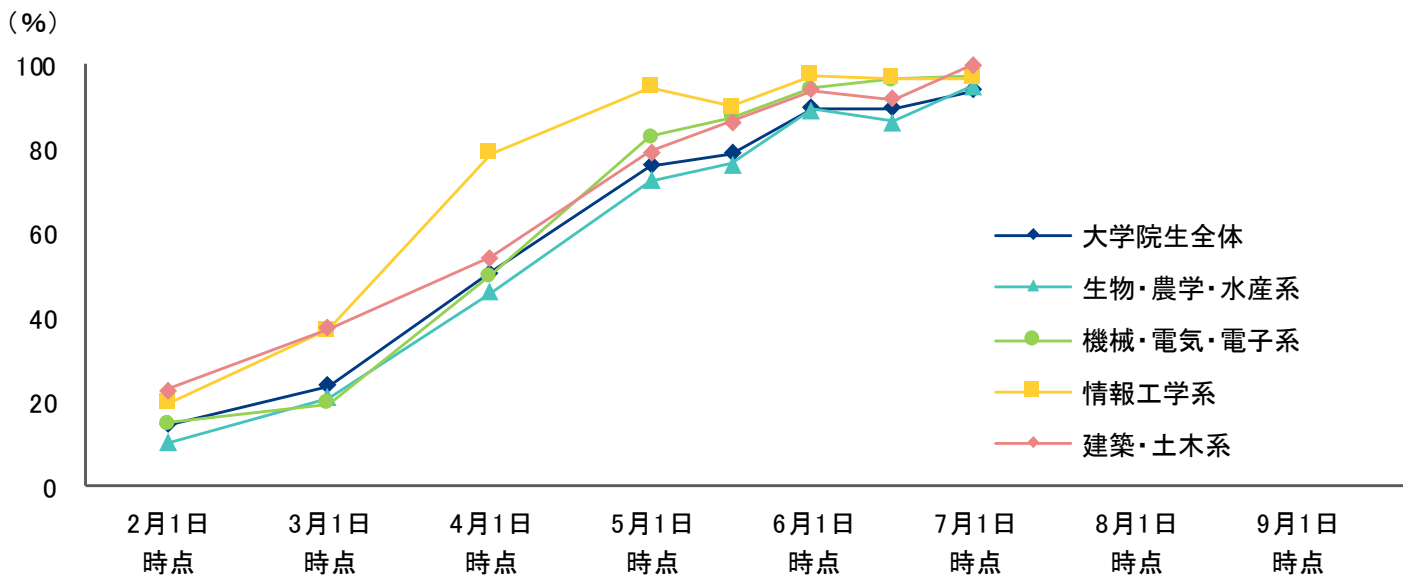
参考：学科系統別に見る就職内定率（大学院生）

3～4月で内定取得が進む学科系統が多い

- ・4月1日時点で大学院生全体の半数以上が内定を取得している。
- ・情報工学系を除く学科系統は、4月1日時点、5月1日時点の内定率から、3～4月で内定取得が進むことがうかがえる。

2022年卒 就職内定率（大学院生）

大学院生_全体（就職志望者/単一回答）



	2月1日 時点	3月1日 時点	4月1日 時点	5月1日 時点	5月15日 時点	6月1日 時点	6月12日 時点	7月1日 時点
■ 大学院生全体	14.4%	23.8%	50.7%	75.9%	78.8%	89.4%	89.5%	93.7%
■ 生物・農学・水産系	10.2%	21.1%	46.1%	72.4%	76.5%	89.2%	86.4%	95.0%
■ 機械・電気・電子系	15.1%	19.7%	50.0%	82.9%	87.4%	94.1%	96.5%	97.1%
■ 情報工学系	19.4%	37.1%	78.9%	94.4%	90.0%	97.4%	96.7%	96.7%
■ 建築・土木系	22.7%	37.5%	54.2%	79.2%	86.4%	93.8%	91.7%	100.0%

※背景を灰色で表記している数値は集計対象数が50に満たないため、参考値です

※「就職内定率」の用語の定義は、14ページをご参照ください

II.学科系統別に見る進路確定時期（大学生）

学科系統によって多少の差はあるが進路確定のピークは4～6月に分散

・全体の傾向として、進路確定のピークは4～6月に分散しているが、生物・農学・水産系は5月が40.7%、機械・電気・電子系は4月が35.3%と、他の月に比べて高くなっている。

・進路確定のピークの背景は、生物・農学・水産系は5月1日時点の内定率が前月差+37.7ポイントとなっていること、機械・電気・電子系は4月1日時点の内定率が前月差+26.4ポイントとなっていること（P.2参照）が考えられる。

・情報工学系は、進路確定時期の割合が他学科系統に比べるとゆるやかに推移している。内定率は2月1日時点で既に20.0%と大学生全体や他学科系統に比べて10ポイント程度高く、それ以降内定取得が順調に進んでいく。これらの点から、内定取得後も活動を継続し、徐々に進路を確定させていく様子がうかがえる。

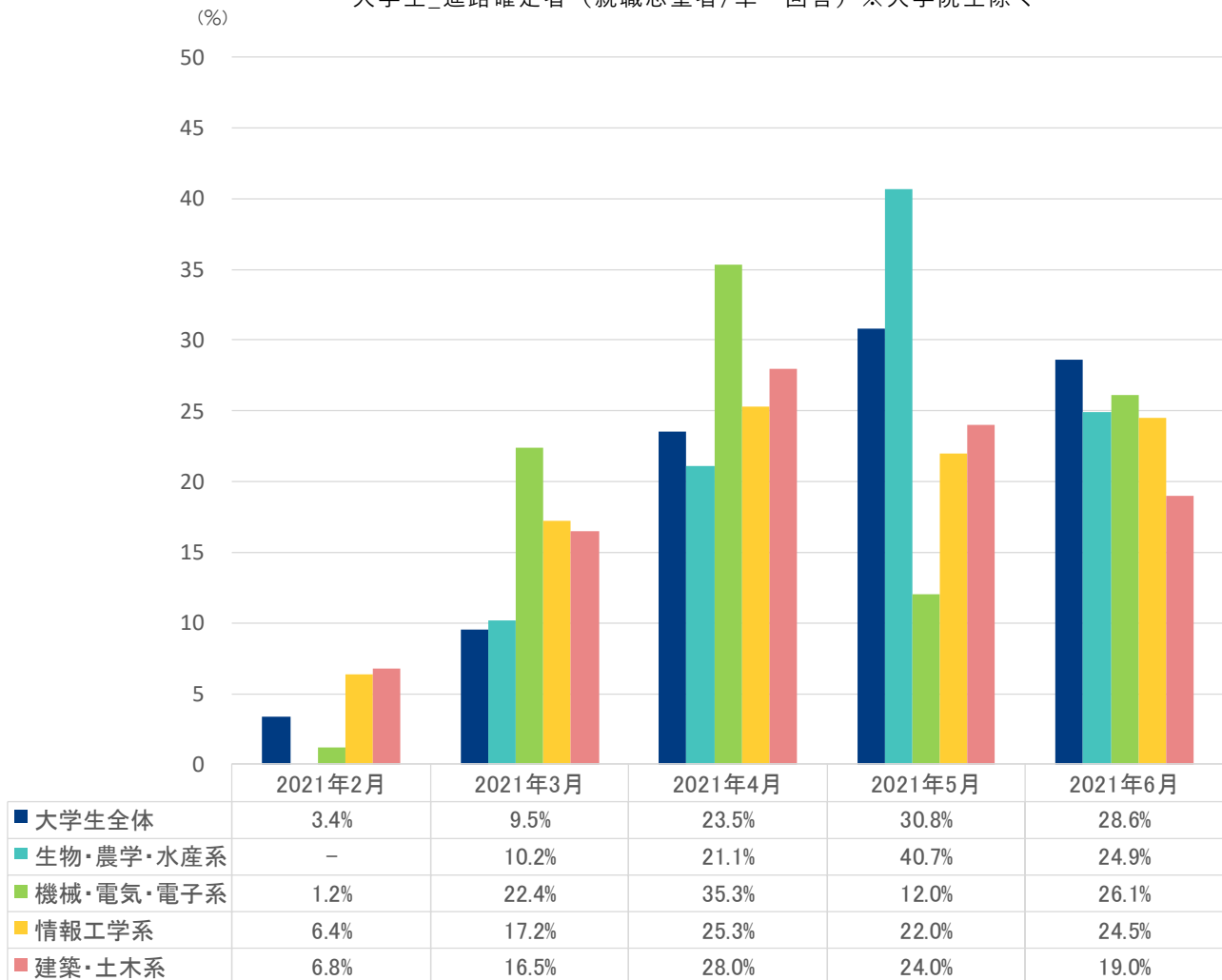
就職志望者のうち、6月12日時点に進路が確定している者の割合（大学生）

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

	(%)				
	大学生全体	生物・農学・水産系	機械・電気・電子系	情報工学系	建築・土木系
6月12日時点の進路確定率	59.3	58.2	69.4	67.5	80.0

進路確定時期（大学生）

大学生_進路確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



※2021年6月12日時点調査より

参考：学科系統別に見る進路確定時期（大学院生）

大学院生は4月に進路確定する学生が目立つ

- ・大学院生全体で見ると、進路確定のピークは4月の34.0%だった。
- ・どの学科系統も4月1日時点、5月1日時点の内定率が前月に比べ大きく上昇している（P.3参照）ことから、5月1日時点までに取得した内定企業の中で進路確定をしている学生が多いことがうかがえる。

就職志望者のうち、6月12日時点に進路が確定している者の割合（大学院生）

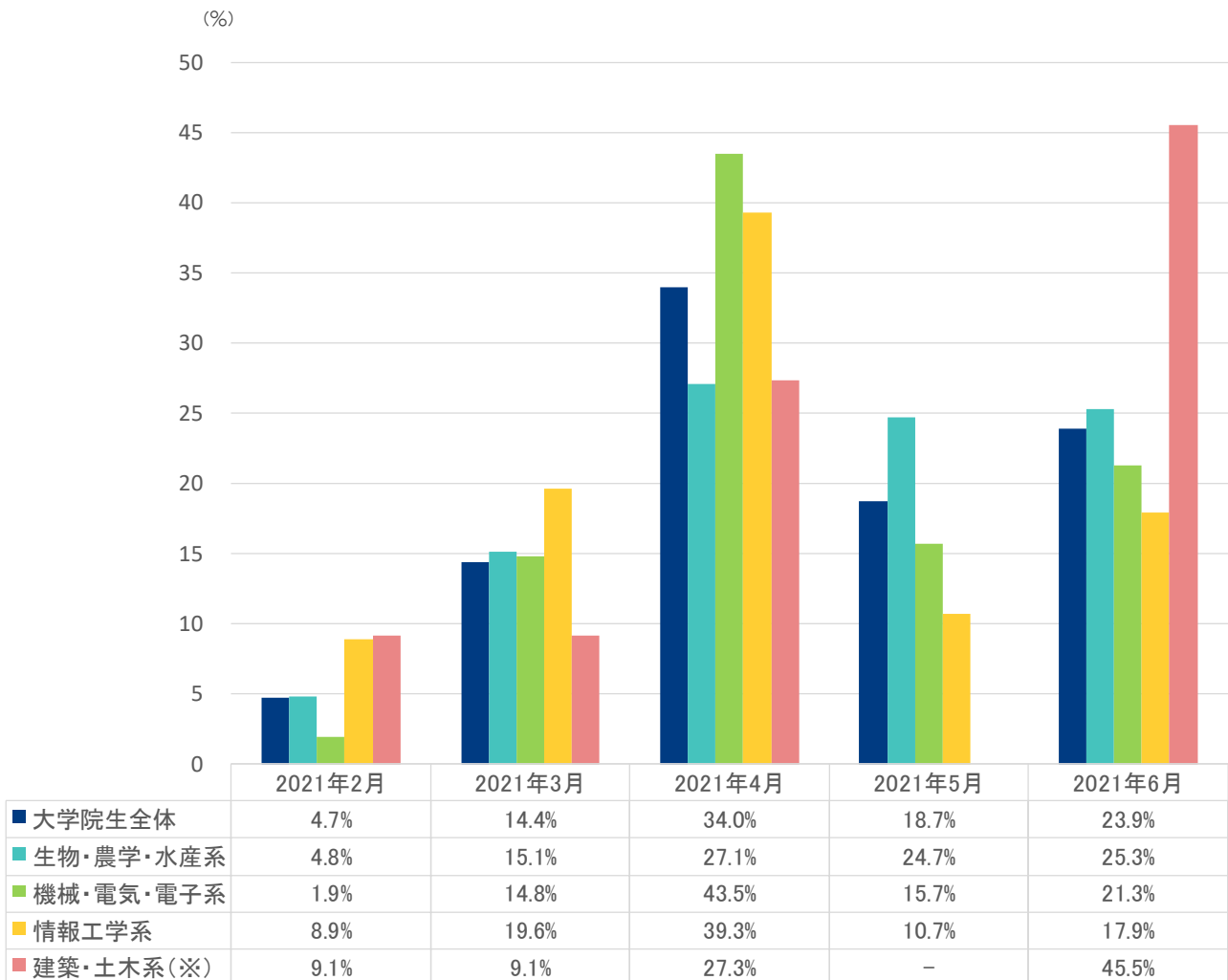
大学院生_全体（就職志望者/単一回答）

	(%)				
	大学院生全体	生物・農学・水産系	機械・電気・電子系	情報工学系	建築・土木系(※)
6月12日時点の 進路確定率	83.5	77.9	94.7	93.3	91.7

※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です

進路確定時期（大学院生）

大学院生_進路確定者（就職志望者/単一回答）



※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です

※2021年6月12日時点調査より

Ⅲ.学科系統別に見る内定取得先企業の業種（大学生）

学科系統によって内定先業種の違いが見られる

- ・ 建築・土木系の「建設業」での内定取得（80.6%）、情報工学系の「情報・サービス業」での内定取得（81.4%）が目立つ。
- ・ 「情報・サービス業」は情報工学系以外の学科系統でも、建築・土木系を除き3割以上が内定を取得している。
- ・ 「製造業」は大学生全体（17.5%）に比べ、機械・電気・電子系の内定取得（52.3%）が目立つ。

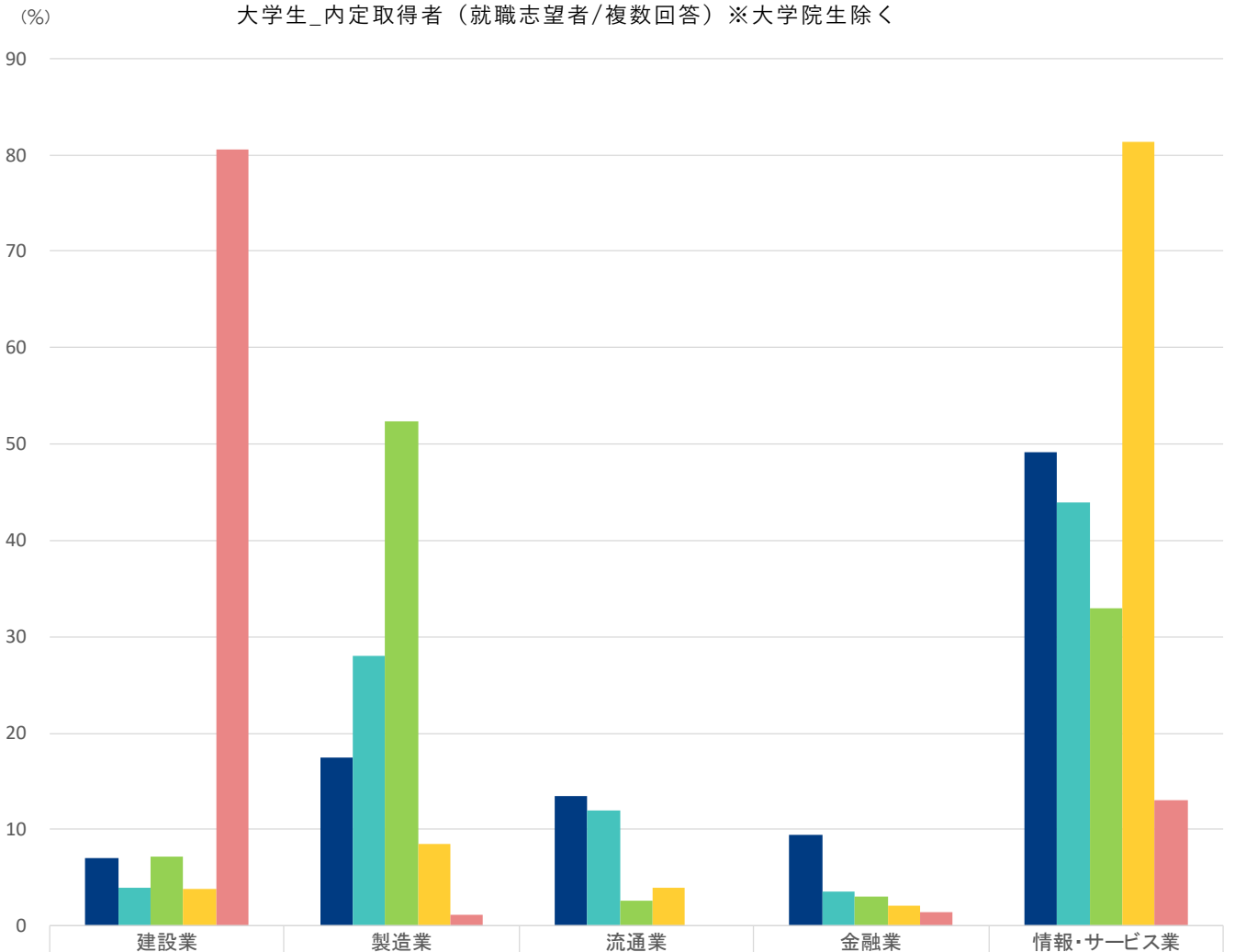
6月12日時点の就職内定率（大学生）

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

	大学生全体	生物・農学・水産系	機械・電気・電子系	情報工学系	建築・土木系
6月12日時点の就職内定率	74.1	74.4	87.7	74.7	91.6

6月12日時点の内定取得先企業の業種

大学生_内定取得者（就職志望者/複数回答）※大学院生除く



■ 大学生全体	7.1%	17.5%	13.5%	9.5%	49.1%
■ 生物・農学・水産系	4.0%	28.0%	12.0%	3.6%	43.9%
■ 機械・電気・電子系	7.2%	52.3%	2.6%	3.0%	33.0%
■ 情報工学系	3.9%	8.5%	4.0%	2.1%	81.4%
■ 建築・土木系	80.6%	1.2%	-	1.4%	13.0%

※「就職内定率」の用語の定義は、14ページをご参照ください

参考：学科系統別に見る内定取得先企業の業種（大学院生）

大学院生は製造業での内定取得が目立つ

・大学院生全体で見ると、「製造業」での内定取得が最も高く57.4%であった。特に生物・農学・水産系、機械・電気・電子系で、7割程度の学生が当該業種から内定を取得している傾向がうかがえる。

・次いで、「情報・サービス業」での内定取得が大学院生全体で32.2%となっており、中でも情報工学系で71.3%と大学生と同様、多くの学生が当該業種で内定を得ている。

6月12日時点の就職内定率（大学院生）

大学院生_全体（就職志望者/単一回答）

（%）

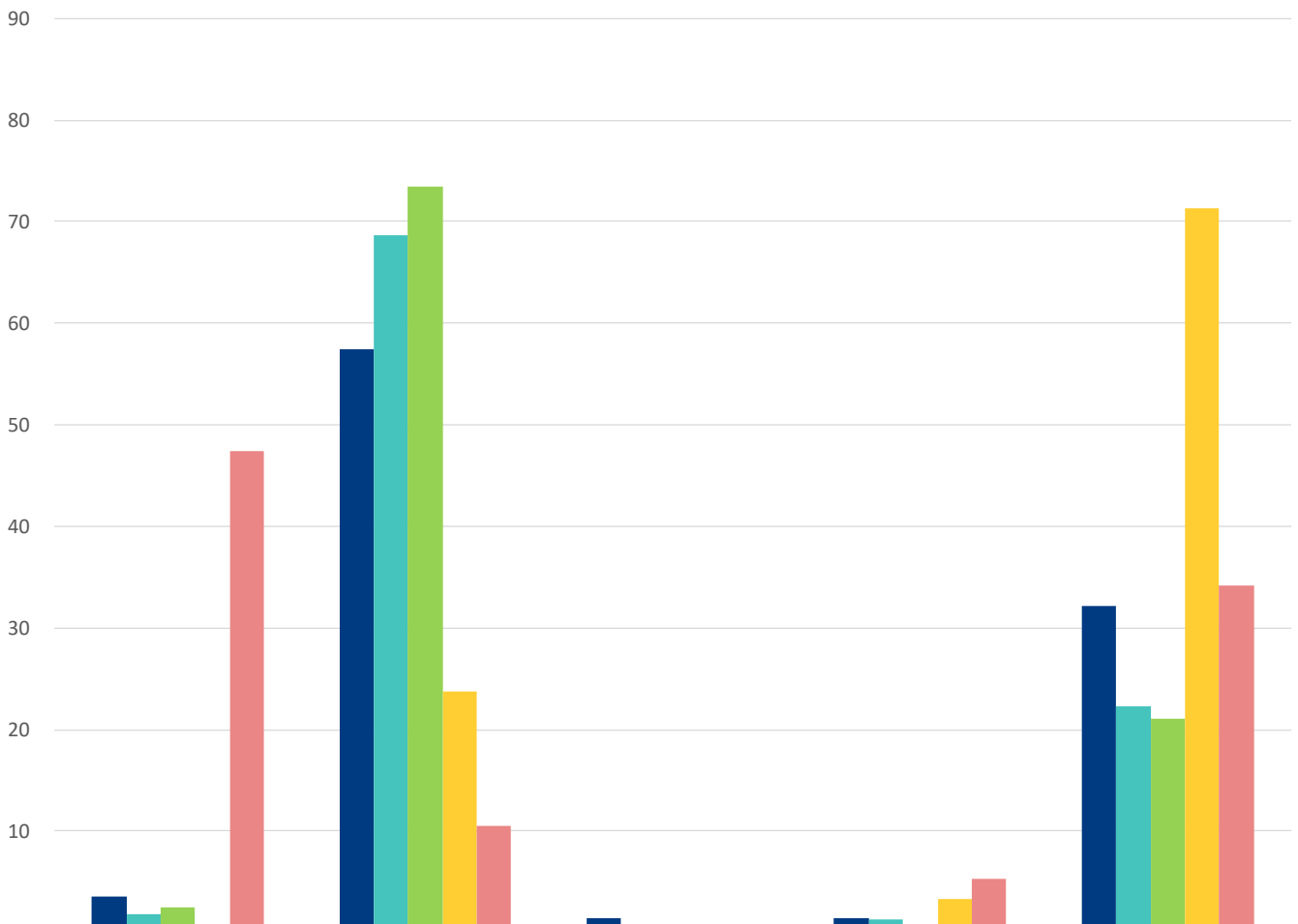
	大学院生全体	生物・農学・水産系	機械・電気・電子系	情報工学系	建築・土木系(※)
6月12日時点の就職内定率	89.5	86.4	96.5	96.7	91.7

※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です

6月12日時点の内定取得先企業の業種

大学院生_内定取得者（就職志望者/複数回答）

（%）



	建設業	製造業	流通業	金融業	情報・サービス業
■ 大学院生全体	3.6%	57.4%	1.4%	1.5%	32.2%
■ 生物・農学・水産系	1.8%	68.7%	-	1.3%	22.3%
■ 機械・電気・電子系	2.5%	73.5%	-	-	21.1%
■ 情報工学系	-	23.8%	0.8%	3.3%	71.3%
■ 建築・土木系(※)	47.4%	10.5%	-	5.3%	34.2%

※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です

※「就職内定率」の用語の定義は、14ページをご参照ください

IV.学科系統別に見る就職活動の内容（大学生）

対面での面接の経験やインターンシップ参加で学科系統ごとに差

・実施率が5割を超えている活動の中で、大学生全体と差が大きい学科系統がある活動は、「面接など対面での選考を受けた」「インターンシップに参加した」が挙げられる。

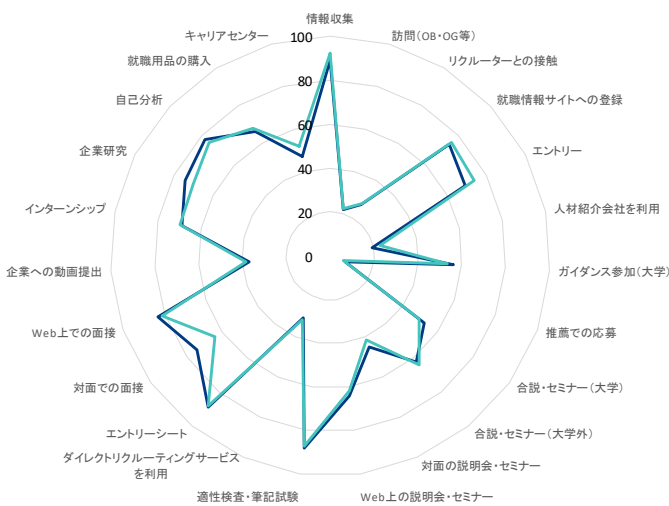
・「面接など対面での選考を受けた」は情報工学系、生物・農学・水産系が大学生全体より10ポイント以上低いに対し、建築・土木系、機械・電気・電子系は10ポイント以上高かった。一方で「Web上での面接を受けた」は大学生全体と同水準で、どの学科系統の学生もWeb上での面接は同程度経験していることがうかがえる。背景には、学科系統によって応募する業種が異なり、業種によってWebのみで選考を進めた企業と、対面と併用して選考を進めた企業と、傾向が異なったことが考えられる。

・「インターンシップに参加した」は、生物・農学・水産系、情報工学系が大学生全体と同水準の実施率である一方、機械・電気・電子系は大学生全体と比べ10ポイント程度低く、建築・土木系は5ポイント程度高かった。

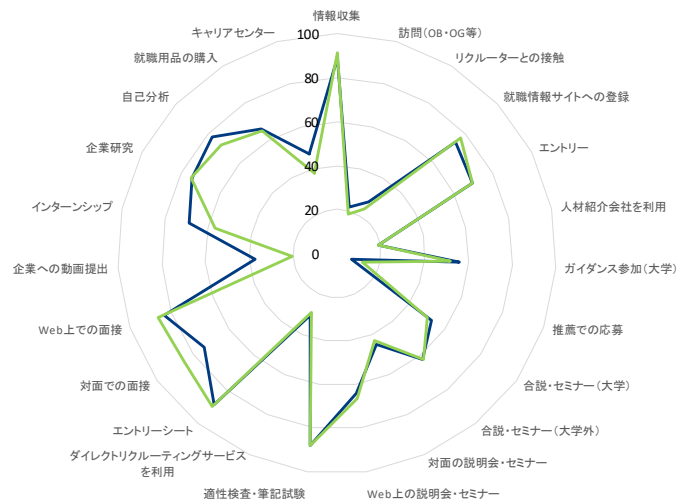
6月12日時点までの各活動実施率（大学生）

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答）※大学院生除く

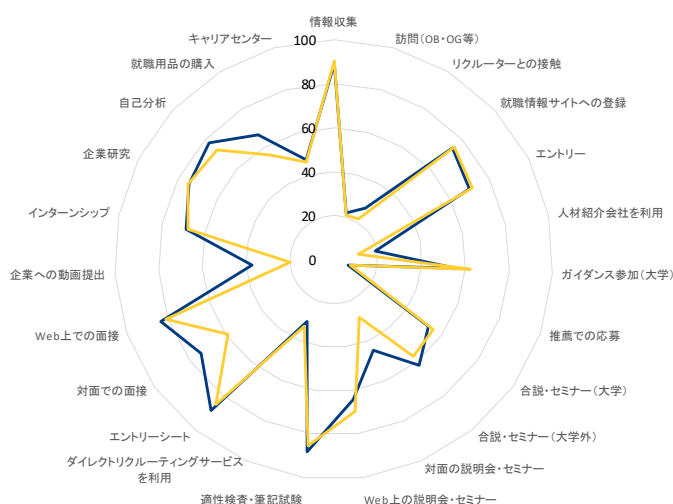
生物・農学・水産系



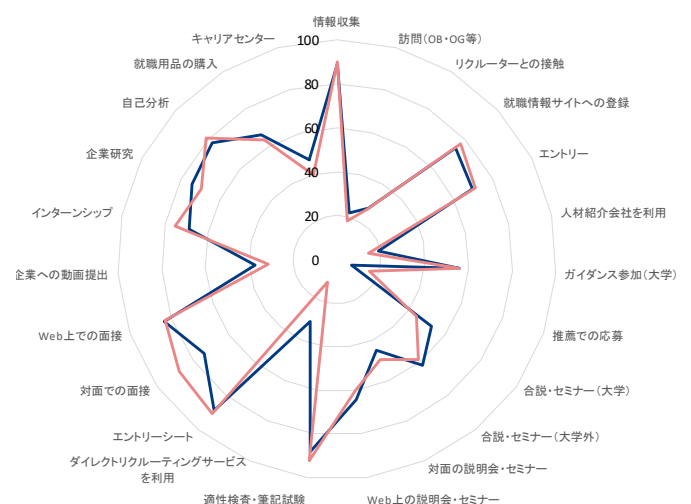
機械・電気・電子系



情報工学系



建築・土木系



※「その他」を除く

参考：学科系統別に見る就職活動の内容（大学院生）

情報工学系で、大学院生全体と比べて10ポイント以上下回る活動が複数

・大学院生全体と比較し、情報工学系で10ポイント以上実施率が下回る活動が複数見られる（「大学以外で開催される合同説明会・セミナーに参加した」「個別企業の説明会・セミナーのうち、対面（社内、会場など）で開催されるものに参加した」「面接など対面での選考を受けた」「企業に自分で撮影した動画を提出した」「自己分析をした」「スーツなど、就職活動に必要なものを購入した」）。

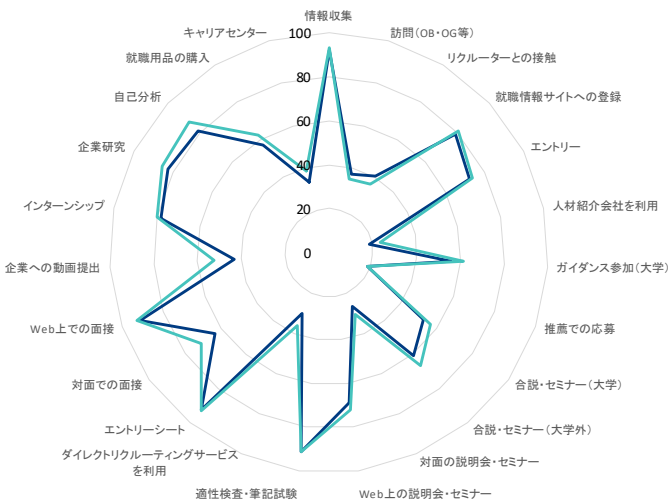
・上記の他、大学院生全体と比較して10ポイント以上実施率に差がある活動は、機械・電気・電子系の「逆求人ヤスカウトなど、ダイレクトリクルーティングサービスを利用した」が挙げられる。

・その他、生物・農学・水産系では、大学院生全体に比べ「企業に自分で撮影した動画を提出した」が+9.4ポイント、「面接など対面での選考を受けた」が+8.0ポイント、機械・電気・電子系では「キャリアセンターに相談した」が-9.7ポイント、「就職情報サイトに登録した」が-9.6ポイント、「リクルーターから接触された」が+9.2ポイント、「企業に自分で撮影した動画を提出した」が-9.0ポイント、「大学や先生などの推薦で各種団体等に応募した」が+8.5ポイントの差となっている。

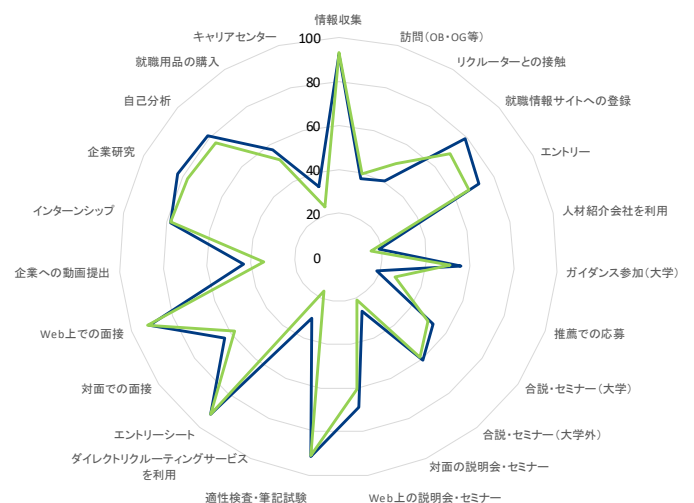
6月12日時点までの各活動実施率（大学院生）

大学院生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答）

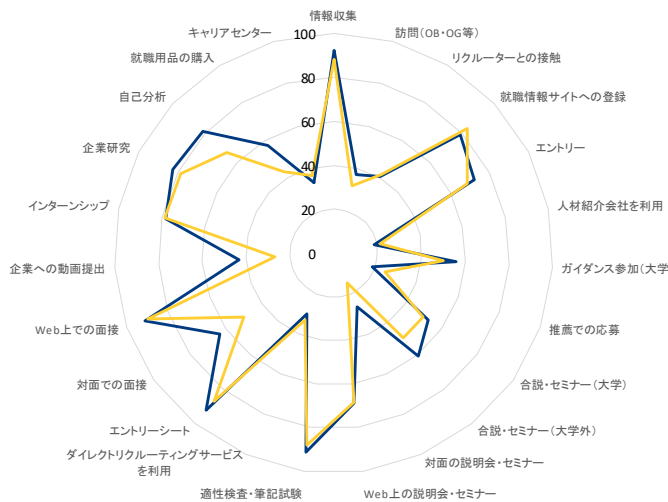
生物・農学・水産系



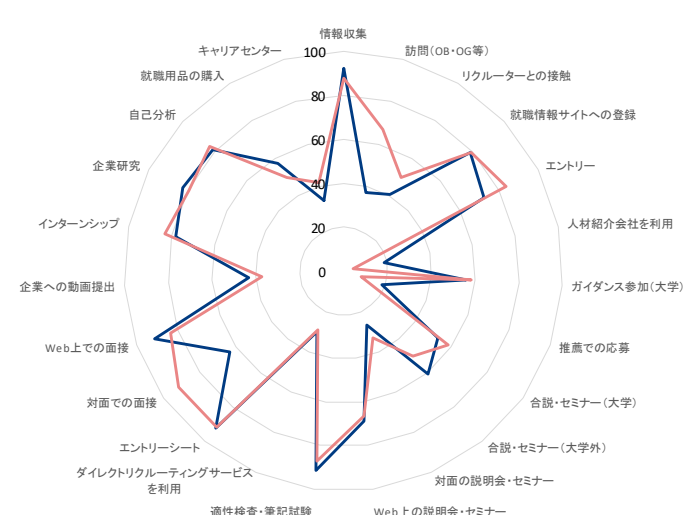
機械・電気・電子系



情報工学系



建築・土木系（※）



※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です
※「その他」を除く

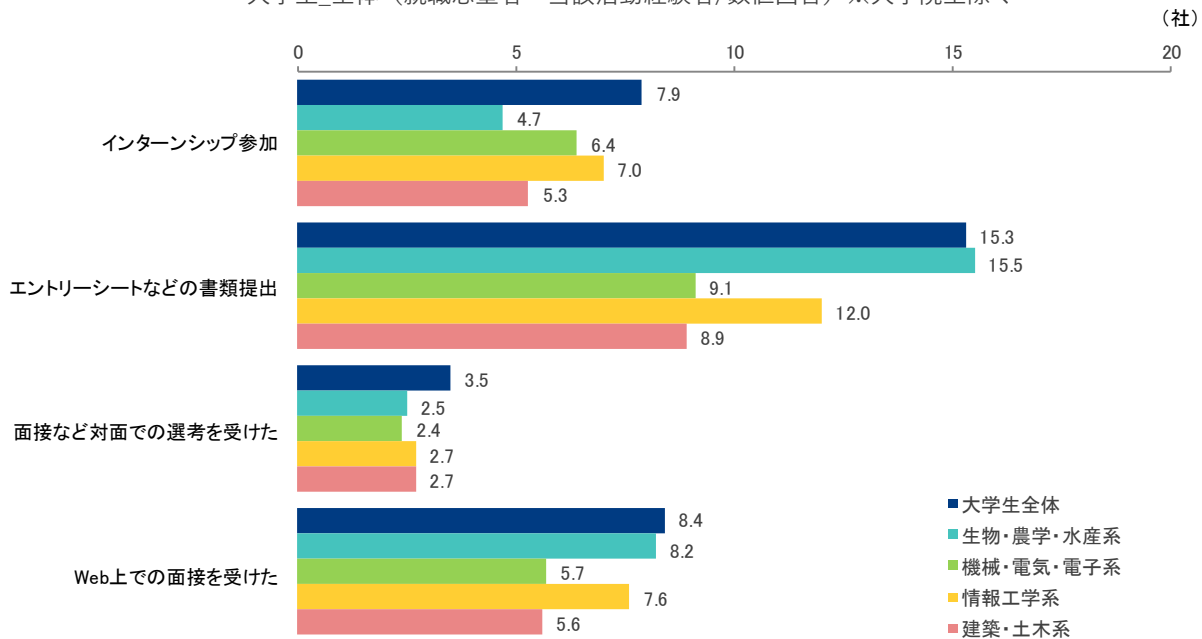
V.学科系統別に見る就職活動の実施量

学科系統により活動実施量に差が見られる

・大学生の各活動実施量の平均値を学科系統で比較すると、「インターンシップ参加」で最も高いのが情報工学系、最も低いのが生物・農学・水産系、「エントリーシートなどの書類提出」で最も高いのが生物・農学・水産系、最も低いのが建築・土木系、「Web上での面接を受けた」で最も高いのが生物・農学・水産系、最も低いのが建築・土木系となっている。「面接など対面での選考を受けた」は学科系統での差はほとんど見られなかった。

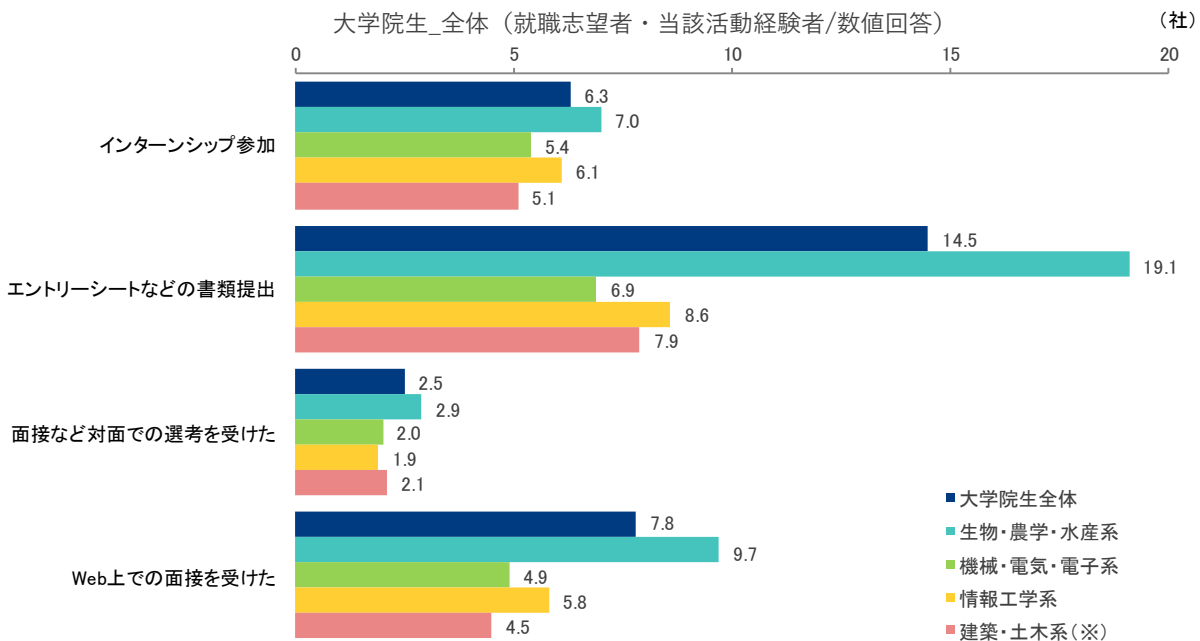
6月12日時点までの各活動実施量の平均値（大学生）

大学生_全体（就職志望者・当該活動経験者/数値回答）※大学院生除く



参考：6月12日時点までの各活動実施量の平均値（大学院生）

大学院生_全体（就職志望者・当該活動経験者/数値回答）



※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です

データ：学科系統別各活動実施率（大学生）

6月12日時点までの各活動実施率（大学生）

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答）※大学院生除く

（%）

	大学生全体	生物・農学・水産系	機械・電気・電子系	情報工学系	建築・土木系
就職に関する情報を収集した	89.2	92.3 (3.1)	91.1 (1.9)	90.2 (1.0)	89.8 (0.6)
OB・OGなど社会人の先輩を訪問した	21.7	22.2 (0.5)	18.6 (-3.1)	21.0 (-0.7)	17.9 (-3.8)
リクレーターから接触された	27.5	27.9 (0.4)	23.8 (-3.7)	21.3 (-6.2)	27.0 (-0.5)
就職情報サイトに登録した	74.1	75.8 (1.7)	77.1 (3.0)	74.9 (0.8)	76.9 (2.8)
企業にエントリー（資料・情報の請求）をした	69.4	74.2 (4.8)	69.5 (0.1)	71.1 (1.7)	71.0 (1.6)
人材紹介会社を利用した	19.4	23.3 (3.9)	19.1 (-0.3)	11.4 (-8.0)	14.5 (-4.9)
大学で開催される就職ガイダンスに参加した	56.1	53.6 (-2.5)	51.7 (-4.4)	62.1 (6.0)	55.8 (-0.3)
大学や先生などの推薦で各種団体等に応募した	7.2	6.5 (-0.7)	12.2 (5.0)	7.7 (0.5)	15.7 (8.5)
大学で開催される合同説明会・セミナーに参加した	52.7	49.9 (-2.8)	50.5 (-2.2)	55.3 (2.6)	44.5 (-8.2)
大学以外で開催される合同説明会・セミナーに参加した	62.0	64.1 (2.1)	62.2 (0.2)	57.1 (-4.9)	58.7 (-3.3)
個別企業の説明会・セミナーのうち、対面（社内、会場など）で開催されるものに参加した	45.2	41.4 (-3.8)	43.0 (-2.2)	28.6 (-16.6)	49.5 (4.3)
個別企業の説明会・セミナーのうち、Web上で開催されるものに参加した	64.5	62.1 (-2.4)	66.8 (2.3)	70.0 (5.5)	60.2 (-4.3)
適性検査や筆記試験を受けた	88.2	87.5 (-0.7)	88.4 (0.2)	85.5 (-2.7)	92.5 (4.3)
逆求人やスカウトなど、ダイレクトリクルーティングサービスを利用した	30.8	31.8 (1.0)	29.0 (-1.8)	33.4 (2.6)	11.2 (-19.6)
エントリーシートなどの書類を提出した	88.4	88.3 (-0.1)	89.9 (1.5)	84.9 (-3.5)	90.1 (1.7)
面接など対面での選考を受けた	74.0	63.9 (-10.1)	84.9 (10.9)	58.9 (-15.1)	88.2 (14.2)
Web上での面接を受けた	83.3	81.1 (-2.2)	86.3 (3.0)	81.2 (-2.1)	83.1 (-0.2)
企業に自分で撮影した動画を提出した	37.1	38.2 (1.1)	20.4 (-16.7)	19.9 (-17.2)	31.4 (-5.7)
インターンシップに参加した	68.7	69.7 (1.0)	56.4 (-12.3)	67.6 (-1.1)	75.2 (6.5)
企業研究（業種・職種研究を含む）をした	74.4	70.3 (-4.1)	74.9 (0.5)	74.7 (0.3)	69.4 (-5.0)
自己分析をした	77.8	75.4 (-2.4)	72.1 (-5.7)	72.7 (-5.1)	81.2 (3.4)
スーツなど、就職活動に必要なものを購入した	66.2	67.8 (1.6)	65.2 (-1.0)	55.4 (-10.8)	63.5 (-2.7)
キャリアセンターに相談した	47.2	51.8 (4.6)	37.9 (-9.3)	46.0 (-1.2)	39.9 (-7.3)
その他	0.4	0.9 (0.5)	—	—	—

※表中（ ）内は大学生全体の数値との差分

※大学生全体との差分が10ポイント以上を赤文字、マイナス10ポイント以下を青文字で表記

データ：学科系統別各活動実施率（大学院生）

6月12日時点までの各活動実施率（大学院生）

大学院生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答）

	大学院生全体	生物・農学・水産系	機械・電気・電子系	情報工学系	建築・土木系（※）
就職に関する情報を収集した	92.3	93.0 (0.7)	93.0 (0.7)	88.3 (-4.0)	87.5 (-4.8)
OB・OGなど社会人の先輩を訪問した	37.0	34.7 (-2.3)	39.5 (2.5)	31.7 (-5.3)	66.7 (29.7)
リクレーターから接触された	40.8	36.6 (-4.2)	50.0 (9.2)	41.7 (0.9)	50.0 (9.2)
就職情報サイトに登録した	78.9	80.8 (1.9)	69.3 (-9.6)	83.3 (4.4)	79.2 (0.3)
企業にエントリー（資料・情報の請求）をした	72.3	73.7 (1.4)	66.7 (-5.6)	68.3 (-4.0)	83.3 (11.0)
人材紹介会社を利用した	18.9	23.9 (5.0)	14.9 (-4.0)	21.7 (2.8)	4.2 (-14.7)
大学で開催される就職ガイダンスに参加した	56.0	61.5 (5.5)	50.9 (-5.1)	50.0 (-6.0)	58.3 (2.3)
大学や先生などの推薦で各種団体等に応募した	18.7	18.8 (0.1)	27.2 (8.5)	25.0 (6.3)	8.3 (-10.4)
大学で開催される合同説明会・セミナーに参加した	52.8	56.8 (4.0)	50.0 (-2.8)	50.0 (-2.8)	58.3 (5.5)
大学以外で開催される合同説明会・セミナーに参加した	60.6	66.2 (5.6)	58.8 (-1.8)	50.0 (-10.6)	50.0 (-10.6)
個別企業の説明会・セミナーのうち、対面（社内、会場など）で開催されるものに参加した	26.6	30.5 (3.9)	21.1 (-5.5)	15.0 (-11.6)	33.3 (6.7)
個別企業の説明会・セミナーのうち、Web上で開催されるものに参加した	69.1	72.3 (3.2)	60.5 (-8.6)	68.3 (-0.8)	66.7 (-2.4)
適性検査や筆記試験を受けた	91.3	91.5 (0.2)	91.2 (-0.1)	88.3 (-3.0)	87.5 (-3.8)
逆求人やスカウトなど、ダイレクトリクルーティングサービスを利用した	30.4	36.2 (5.8)	16.7 (-13.7)	33.3 (2.9)	29.2 (-1.2)
エントリーシートなどの書類を提出した	92.1	92.5 (0.4)	92.1 (0.0)	86.7 (-5.4)	91.7 (-0.4)
面接など対面での選考を受けた	63.4	71.4 (8.0)	57.9 (-5.5)	50.0 (-13.4)	91.7 (28.3)
Web上での面接を受けた	91.5	92.5 (1.0)	92.1 (0.6)	90.0 (-1.5)	83.3 (-8.2)
企業に自分で撮影した動画を提出した	43.2	52.6 (9.4)	34.2 (-9.0)	26.7 (-16.5)	37.5 (-5.7)
インターンシップに参加した	77.9	79.8 (1.9)	78.1 (0.2)	78.3 (0.4)	83.3 (5.4)
企業研究（業種・職種研究を含む）をした	82.3	85.4 (3.1)	77.2 (-5.1)	78.3 (-4.0)	79.2 (-3.1)
自己分析をした	81.3	87.3 (6.0)	76.3 (-5.0)	66.7 (-14.6)	83.3 (2.0)
スーツなど、就職活動に必要なものを購入した	57.5	62.4 (4.9)	51.8 (-5.7)	43.3 (-14.2)	50.0 (-7.5)
キャリアセンターに相談した	33.4	38.5 (5.1)	23.7 (-9.7)	36.7 (3.3)	41.7 (8.3)
その他	—	—	—	—	—

※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です

※表中（）内は大学院生全体の数値との差分

※大学院生全体との差分が10ポイント以上を赤文字、マイナス10ポイント以下を青文字で表記

調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2022年卒：2021年6月12日時点

調査対象 | 2022年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2022』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生8,736人（内訳：大学生7,261人/大学院生1,475人）

調査期間 | 2021年6月12日～6月17日

集計対象 | 大学生 1,727人/大学院生 557人

※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト

<https://job.rikunabi.com/2022/>

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者＋志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

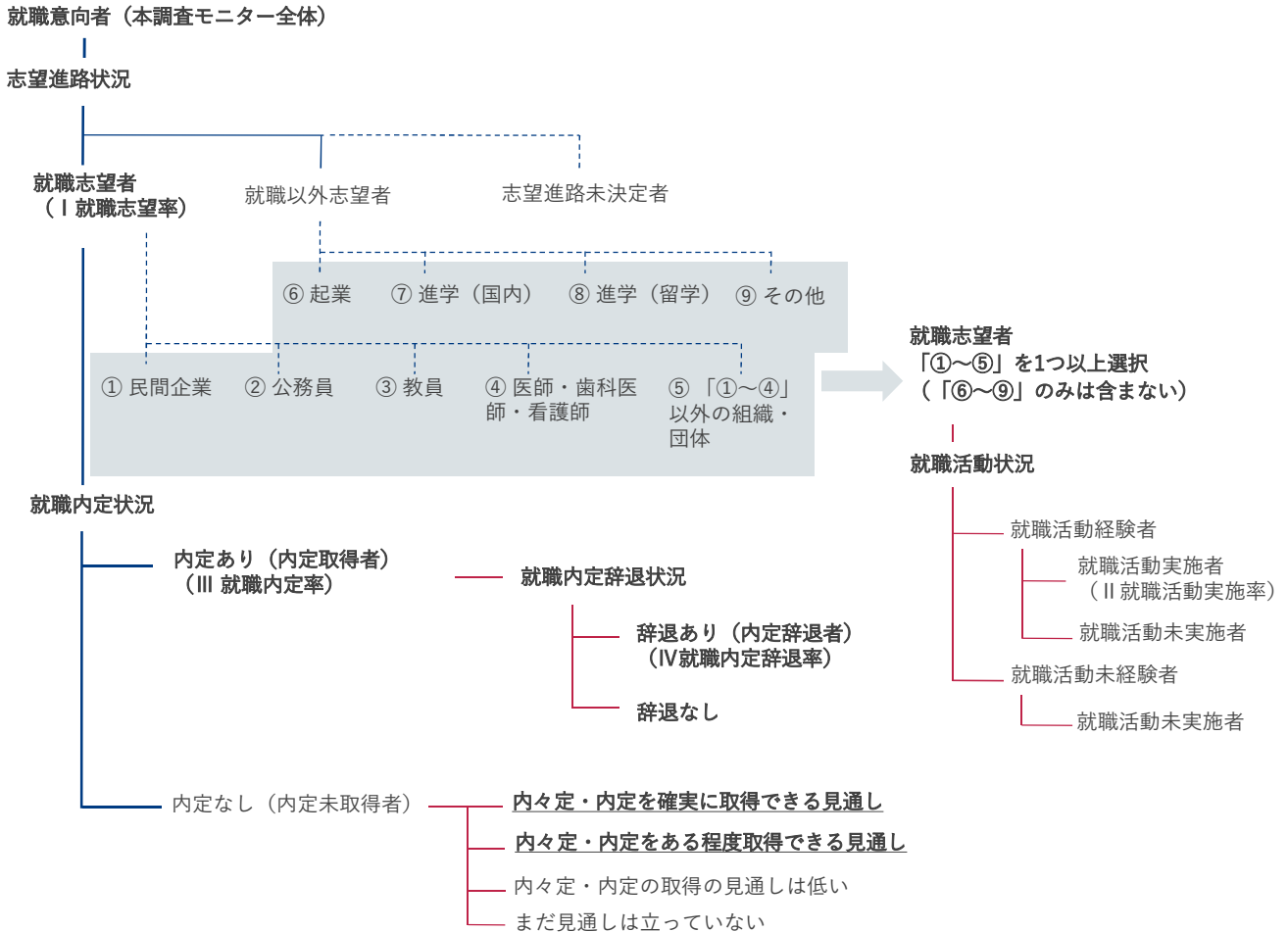
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2021年卒」を示す

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

● 就職意向者	=	当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
● 就職志望者	=	当月、就職を志望している者
● 就職活動実施者	=	当月、就職活動を実施している者 (※)
● 就職活動経験者	=	当月までに就職活動の経験がある者
● 就職内定取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
● 就職内定未取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
● 進路確定者	=	当月、進路が確定している者
		進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
● 就職内定辞退者	=	当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

○ 関東	=	東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
○ 中部	=	静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
○ 近畿	=	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
○ その他地域	=	「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者